

〔酒史新編序〕佩弦青山君○延病而不朝者累數月唯晚昨前舉兩三蕉者不異平時耳門人故舊傳聞

日遠有贈酒者有贈盃蓋者四方醪醇常滿厨下諸州名盃珍蓋悉聚焉所闕者僅數州云每書窓日觀

君舉此盃而酌此醇微醺餘興有酒史新編之著○中乙丑季夏之望齋藤弘撰

〔數寄道具定直段附後篇〕塗師宗哲

盃 五枚 二拾目 大盃 一枚 六匁 三ッ重菘盃 壹組 四拾三匁

〔萬葉集古義二中天〕土佐國朝峯神社にて酒をのむ器をけさかづきといへり筥盃其形今のもつ

さうの如くにして圓し

〔梅園日記〕蜜柑盃

蜜柑の皮を盃となす戲は小兒のするわざ也もろこしには大人の橙盃あり○下

〔倭名類聚抄十六木器〕椀 陸詞切韻云椀音與拳同漢語抄云佐須江器似斗屈木爲之考聲切韻云椀盃類也

〔倭訓栞前編十〕さすえ 倭名抄に椀をよめり挿柄の義器似斗と注せり又屈木爲之といへるは

今いふまげ物なり盃類とも見えたり今も東國の民間には此物を酒器とすといへり

〔和漢三才圖會三十一庖厨具〕椀 音圍 和名佐須江俗云佐佐江 竹筥俗字和訓同

五車韻瑞云椀屈木盃也一曰器似升屈木爲之孟子云猶以杞柳爲杯椀者是也

按椀俗云曲物也孟切雲俱飯器又云飲器也然則椀樽佐須江也椀盃今云入子盃之類也今以竹筥

爲椀亦和名同用竹筥二字所出未詳

〔孟子十一告子〕告子曰性猶杞柳也義猶栝椀也栝音杯椀丘圓反性者人生所稟之以人性爲仁義猶以杞柳爲栝椀

天理也杞柳栝椀栝音杯椀丘圓反風木所爲若厄區之屬

〔下學集下器財〕鐘子 藥鐘

〔書言字考節用集七器財〕湯鐘俗云藥鐘

藥鐘

椀